

松 山 大 学 論 集
第 21 卷 第 2 号 抜 刷
2 0 0 9 年 8 月 発 行

資 金 計 算 書 の 淵 源

— Kennet & Avon 運河による 1812 年から 1817 年までの会計報告 —

溝 上 達 也

資金計算書の淵源

—— Kennet & Avon 運河による 1812 年から 1817 年までの会計報告 ——

溝 上 達 也

1. 問題の所在

筆者は、溝上（2007）において、会計学的見地から Kennet & Avon 運河を取り上げる際に検討するべき課題として、以下の三つを指摘した。一つ目は、運河会社会計において公表された資本勘定の意義である。多額の資金を必要とし、建設に長い期間を必要とする運河会社においては、資本の調達と運用を示す資本勘定が公表された。運河建設時の会計報告を検討することにより、いわば株式会社会計の原点ともいえる資本勘定の生成過程および意義を明らかにすることが第一の課題である。二つ目は、運河会社における損益計算の意義である。運河の開通により営業が開始されたことに伴い、利益計算を行うことが必要となった。運河開通後の会計報告を検討することにより、運河会社における損益計算の特徴を明らかにすることが第二の課題である。三つ目は、運河会社の会計報告と後の資金計算書との関係である。資金計算書の源流は英国鉄道会社において採用された複会計制度¹⁾にあると言われており、複会計制度は運河会社の会計システムが発展したものとされる。運河会社の会計報告が後の複会計制度にいかなる影響を与えたのかを明らかにすることが第三の課題である。

溝上（2007）では、運河建設時における Kennet & Avon 運河の会計報告書について検討した。特に運河会社の会計報告を特徴づける資本勘定について、その内容および生成過程について明らかにした。本稿では、運河開通後の会計報告を分析することにより、残る二つの課題に取り組むことにする。

本稿における一つ目の課題は、Kennet & Avon 運河における損益計算書の生成過程とその特徴を明らかにすることである。Kennet & Avon 運河では、1796年に最初の計算書が公表され、以後、いくつかの形式の異なる計算書が開示された。試行錯誤の末、1805年から運河が開通するまでの間は、統一された様式の計算書が定着することになった。1812年以降、Kennet & Avon 運河の会計報告は新たな段階に入る。運河が開通したことから、資金の調達と運用をあらゆる資金勘定の開示だけでは十分であるとはいえなくなり、損益計算の必要が生じた。1812年から1816年までにいくつかの形式の異なる計算書が公表され、1817年以降は統一した形式の計算書が定着した。これは、企業が損益計算書を含む会計報告の体系を構築する過程であると考えられる。本稿では、この間の会計報告を取り上げて、Kennet & Avon 運河における損益計算の構造と会計報告の体系に焦点を当て、分析を行う。

本稿における二つ目の課題は、後の複会計制度に繋がると言われる会計報告について検討することである。英国において伝統的に用いられていた会計制度として複会計制度があり、資金計算書の原型をこれに求める議論が多く展開されている。例えば、黒澤（1957）は、複会計制度の理論が資金会計の特徴をそなえていることを指摘した上で、英国の複会計制度の成立を、(1)15世紀における複式簿記の成立、(2)17世紀における貸借対照表制度の成立、(3)20世紀における会計原則の統一と並んで、企業会計の制度史の上において時期を画する四つの業績の一つとして評価している。

複会計制度は1868年の鉄道規制法によって制度化された財務報告体系である。現代会計において貸借対照表に収容される資産・負債・資本が二つの計算書に分かれて報告されるという特徴を有する。資本・固定負債・固定資産の各項目については資本勘定において明細が示され、流動資産・流動負債の各項目は General Balance Sheet²⁾に掲載される。固定項目と流動項目とを区別することが、後の、運転資本資金概念に繋がったと考えられ、複会計制度が資金計算書の淵源であると言われる。資本勘定と General Balance Sheet の特徴を有する

計算書が英国鉄道会社において初めて採用されたのは、1838年の London and Birmingham 鉄道の財務諸表であり³⁾、鉄道会社においてこのような財務諸表が公表されるようになったのは、運河会社の会計実務を参考にした結果であると言われている。したがって、運河会社の会計実務を検討することは、資金概念および資金計算書のルーツを探る上で必要不可欠であると考えられる。Edwards (1985) によると、鉄道会社が採用する以前に、複会計制度における特徴的な計算書の一つである General Balance Sheet に類似した計算書を公表した運河会社の一つに Kennet & Avon 運河がある。Edwards (1985) による General Balance Sheet に類似した計算書とは、1817年以降に公表されている“General Account”を指すものと思われる。本稿では、資金計算書の基となる会計実務がいかんにして生成されたのかを検討するとともに“General Account”の特徴を明らかにする。

次節より、Kennet & Avon 運河の会計報告を取り上げ、その内容を精査することにより、上述の二つの課題に取り組むことにする。

2. Kennet & Avon 運河の概要と 1811 年までの会計報告

Kennet & Avon 運河は、Bath と Newbury を結ぶ運河であり、1792年に建設が計画された⁴⁾。1794年の個別法獲得により建設が開始され、1810年に運河は開通した。Kennet & Avon 運河は、運河に対する投機熱が高まったいわゆる「運河マニア」期に建設が企画された。実際に建設が進められると、同時期に建設された他の運河会社と同様に、当初の調達額では建設資金が足りなくなり⁵⁾、追加の出資を募ることになった⁶⁾。経営者に対する不信が増幅する中で追加出資を募るため、すでに調達した資金の用途を示す必要が生じ、結果として会計報告が整備されることになった。

建設時における Kennet & Avon 運河の会計報告書を概観すると、1796年から1802年までは、さまざまな様式の報告書が不定期に公表されている⁷⁾。1803年以降は、毎年会計報告書が公表されている。1803年の報告書では、設立時

(図表 1) 1804年に公表された Kennet and Avon 運河の計算書

STATEMENT. No. 1.

ACCOUNT of RECEIPTS and EXPENDITURE on the KENNET and AVON CANAL, to November 30th, 1804.

Dr.	£.	s.	d.	Cr.	£.	s.	d.
To Canal Adventure, first Subscription	420,000	0	0	By establishing Brick-Yards, Making and Purchase of Bricks, building Locks, Bridges, Aqueducts, Culverts, and other Masonry, Cost of stone, Pozzolano, &c.	119,461	7	3
Deficiency on this Subscription, by Shares not paid up, being forfeited	10,301	19	0	Cost of Land and other Property	46,731	2	7
Profit on 516 Shares forfeited, which had paid	4,876	0	0	Cost of Bath River Shares	15,548	2	0
9 Calls of 5 per Cent, each on 3000 new Shares, being 45l. per Share, which, by the Agreement with the Treasurers, they are debited with	135,000	0	0	Engineers, Surveyors, Clerks, Agents, Law Charges, Acts of Parliament, &c.	32,696	16	11
Tonnage received on Eastern District	1,209	17	10	Earth Work. (as Digging, Banking, &c.)	122,439	15	5
Tonnage on Western District	4,534	1	2	Boats, Timber, Plank, Carpenters' Work, Materials	22,408	2	7
Income received on Bath River Shares	2,092	10	9	Committee Expences, Commissioners' Meetings, &c.	6,638	16	7
Due to sundry Contractors	162	0	2	Printing and Stationary	1,337	19	6
				Interest paid Proprietors	61,487	8	11
				Incidentals	2,528	18	2
				Steam and Horse Engines	1,521	11	4
				Damage paid to Land-Owners, Repairing Slips, &c.	9,330	16	5
				Wharfs, Warehouses, &c.	2,826	7	8
				Repairs	4,573	4	2
				Locks at Bath	18,607	1	1
				Lock-Keepers and Wharf Wages	1,046	4	6
					469,183	15	1
				NEW WORKS			
				Rail Road	8,281	0	1
				Purchase of Land	19,674	7	11
				Boats, Timber, Craft, &c.	1,374	7	11
				Surveyors, Engineers, &c.	2,354	7	3
				Damages	162	3	1
				Printing and Stationary	45	18	7
				Earth Work. (as Digging, Banking, &c.)	31,212	10	6
				Locks at Devizes	5,251	16	3
				Bridges, Culverts, &c.	11,477	10	9
				Steam Engine	835	0	0
				Interest Account	22	10	5
				Committee Expences	31	7	5
				Fencing	379	4	11
				Horses, Waggon, &c.	299	7	2
				Lime-Kiln	56	15	4
					81,459	7	7
					550,643	2	8
				By Balance, being Cash in the Hands of Eastern District Clerks	100	8	1
				Ditto Middle Dist. Clerk	31	2	11
				Ditto Western ditto	67	13	7
				Ditto HARFORDS & Co. including Calls not paid	6,439	5	4
				Ditto JOHN WARD	90	18	4
					6,729	8	3
					577,372	10	11
					577,372	10	11

STATEMENT. No. 2.

1804 Nov. 30				1804 Nov. 30			
Dr.				Cr.			
£.	s.	d.		£.	s.	d.	
				By Balance, per Statement, No.1.	6,729	8	3
				By Three Calls of 5l. Per Share on 3,000 new Shares	45,000	0	0
					51,729	8	3
				Balance	189,730	11	0
Sum wanting to complete the Canal on the Middle District, as per Estimates	112,816	14	5				
Ditto in the Western District	5,141	13	3				
Ditto in the Eastern District	1,550	13	7				
	<u>219,509</u>	1	3				
Supervisal, Engineers, Surveyors, Clerks, Agents, Law Charges, Committee Expences, &c. 10 per Cent.	21,950	18	0				
	<u>241,459</u>	19	3		<u>241,459</u>	19	3

からのすべての収支が示されている。図表 1 に示した 1804 年の報告書では、設立時からのすべての収支をあらわす計算書 (Statement. No. 1) に加えて、運河建築に必要な金額と新株の発行による資金調達予定額とを対照表示させることにより資金の不足額をあらわす計算書 (Statement. No. 2) が公表された⁸⁾

1805 年から 1811 年までの報告書は前年の資産負債残高に当該年度の収支を加減し、期末の資産負債をあらわす形式のものとなっている。図表 2 に示した 1811 年の報告書では、まず貸方の冒頭に、前年度から繰り越された負債と資産が示され、差額として負債の残高が計算されている。続いて、既存事業に対する投資の明細、新規事業に対する投資の明細、既存・新規の事業に共通して発生する費用の金額が示される。借方には、資金の調達額および営業による収入の明細が示され、貸借の差額として、期末の負債残高が借方末尾に示されている。

本節では、建設時における Kennet & Avon 運河の会計報告を概観した。不足する建設費を、追加の出資を募ることによって賄う必要があったので、既に調達した資本の会計責任を果たす必要があった。そのため、過去の収支をすべて示すことにより、資本の調達と運用を明らかにする計算書が整備された。運河は 1810 年に開通し、本格的な営業を開始することになった。次節では、1812 年から 1816 年の報告書を検討することにより、運河会社における損益計算書の生成過程を見ていくことにする。

(図表 2) 1811 年に公表された Kennet and Avon 運河の計算書

ACCOUNT of RECEIPTS and EXPENDITURE on the KENNET and AVON CANAL,
from May 30, 1810, to May 30, 1811.

Dr.	£.	s.	d.		£.	s.	d.	£.	s.	d.	Cr.
To received for Materials sold viz. Boats, Timber, Trampates, &c. &c.	4,587	8	7	By Balance due to Treasurers and Others as per last Report	26,968	8	8				
The 10th Call of 10l. Per Cent on the Subscription of 27,540l.	2,754			Deduct Balance due from Sundries as per Ditto	359	14	11	26,608	13	9	
Three Calls on the last 4000Shares at 16000l. Each	48,000			Land	5	17	5				
One Year's Income on Bath River Shares	782			Earth Work	223	5	11				
Tonnage on Eastern District	2,388	8	6	Boats, Timber, &c.	42	8	9				
Ditto on Western and Middle Ditto	9,599	11	2	Damages	209	6	7				
To Balance due to Treasurers and Others	13,745	17	8	Alterations, Additions and Improvements, on the Eastern and Western Lines in which are included Repairs	11,383	6	6				
				Rent	176	10	11				
				Mill at Claverton	1,205	5	7				
				House at Bradford	393	16	3				
				Wharfs, Warehouses, &c.	129	17	3				
				Lock Keepers & Wharf Wages	856	7	10	14,626	3		
				NEW WORKS							
				Land	445	8	7				
				Damages	569	19	10				
				Locks at Devizes	26,857	5					
				Bridges, Culverts, &c.	2,738	13	1				
				Steam and Mortar Engine	1,174	1	3				
				Fencing	1,171		8				
				Horses, Waggon, &c.	95	15	10				
				Stamps	40	8	7				
				Tunnel	255	8	11	33,348	1	9	
				Interest to Bankers and Optional Notes				1,028	4	7	
				Engineers, Surveyors, Agents, Committee Expenses, Law Charges, Printing, Stationary, Incidentals, Rent of Offices, &c.				2,812	16		
				Timber				3,433	6	10	
	81,857	5	11					81,857	5	11	

3. Kennet & Avon 運河における損益計算書

前節では、Kennet & Avon 運河における設立から 1811 年までの会計報告を概観した。運河は 1810 年に開通しており、1811 年の報告書では、通行料収入が計上されている。しかし、この段階では、収益と費用とを対比する形での利益計算は行われていない。本節では、1812 年から 1816 年の報告書を検討することにより、損益計算書がどのように整備されていったかを見ていくことにする。

1812 年には、図表 3 の “Receipt and Expenditure on the Kennet and Avon Canal, from its commencement to May 29, 1812” と名付けられた報告書が公表されている。借方の冒頭には、出資者からの資金調達額が示されている。続いて、通行料収入と配当金の受取額が示され、ここで小計が計算されている。最後に負債の金額が示され合計が計算されている。貸方は大きく三つに区分されている。一つ目の区分には、運河建設に要した金額が項目別に示されている。二つ目の区分には、株式取得の金額等、Avon 川の取得と整備に要した金額が示されている。三つ目の区分には、手許現金や貸付金等の資産が項目別に表示されている。

先述のとおり、1805 年から 1811 年までは前年の資産負債残高に当該年度の収支を加減し、期末の資産負債残高を示す形式が採られていた。これに対し、1812 年の報告書では、設立当初からの資本の調達と運用すべてをあらわした上で、期末における資産・負債の金額が示されている。1812 年の報告書において、設立当初からのすべての収支が改めて示されたのは、運河の開通を受けて、もう一度資本の調達と運用について全額を示す必要があったからであると考えられる。

図表 4 に示したように、1813 年の報告書は、“Receipts and Expenditure on the Kennet and Avon Canal, from its commencement to May 29th, 1813” (以下、“Receipts and Expenditure” とする) と “Account of Income and Expenditure thereon,

(図表3) 1812年に公表された Kennet and Avon 運河の計算書

Receipts and Expenditure, on the Kennet and Avon Canal, from its commencement to May 29, 1812

Dr.					Cr.						
		£.	s.	d.	£.	s.	d.	£.	s.	d.	
To Canal Adventure Received from the first Subscription		409,498		1				By establishing Brick Yards, making and purchase of Bricks, Building Locks, Aqueducts, &c. &c.	285,740	11	8
Ditto on Shares at 60l. Each		177,390						Earth Work	277,479	1	3
Ditto on 20l. Shares and Optional Notes		200,000						Tunnel	16,201		6
Ditto on 24l. Ditto		96,000						Fencing	13,191	14	6
Profit on forfeited Shares		5,326						Timber, Boats, Craft, &c.	21,780	12	4
Tonnage received		50,183	12	9				Rail Road at Devises	7,784	6	10
Dividends received on Avon River Shares		8,974	10	9				Cost of Land	70,919	8	8
					947,372	4	6	Damages, including purchase of Water from Mills	25,238	19	10
Due to Treasures for Cash advanced and Bills drawn		17,183	12	8				Engineers, Surveyors, Clerks, Agents, Law Charges, Acts of Parliament, &c.	73,093	1	4
Due to Contractors and others		14,759		7				Alterations, Additions and Improvements on the Eastern and Western Lines in which are included Repairs	48,748	6	5
					31,942	13	3	Mills purchased by the Company	6,001		17
								Mill at Claverton for Pumping Water	6,279	8	6
								Steam Engines and Feeder	12,944	15	7
								Interest principally paid to Proprietors	68,116	19	9
									933,520	4	2
								Cost of Avon River Shares	15,609	11	7
								Wharfs, Warehouses, &c. not valued for sale	3,342	1	6
								Obtaining Towing Path Act	3,353	19	7
								Tonnage due from Sundry traders	1,615	19	10
									22,305	12	8
								Cash to the debit of different Agents, being Money advanced towards Payment of different small Contractors & Workmen	590	2	4
								In Bradford Bank for Tonnage	500	4	10
								To the debit of Worrall & Co.	45		
								Old Defaults due	34	9	4
								Stock consisting of Land and other Property convertible	20,703	4	7
									23,489		11
					979,314	17	9		979,314	17	9

(図表 4) 1813 年に公表された Kennet and Avon 運河の計算書

Receipts and Expenditure, on the Kennet and Avon Canal, from its commencement to May 29, 1813; and Account of Income and Expenditure thereon, for one Year ending the 29th May, 1813.

Dr.						Cr.		
	£.	s. d.		£.	s. d.	£.	s. d.	
To Canal Adventure per Statement, 29th of May, 1812.	947,372	4 6	By Cost of Canal per Statements, 29th May, 1812			933,520	4 2	
First and Second Instalments on New Subscription	49,500	0 0	Obtaining Towing Path Act, as per last Statement	3,353	19 7			
Due to Ward, Brown, and Co. for Interest on Bills discounted by them from time to time	694	19 4	Wharfs, Warehouses, &c.	3,342	1 6			
			Cost of Avon River Shares	15,609	11 7			
	997,567	3 10				22,305	12 8	
Balance of Income for the present Year,	11,843	0 7	Paid towards Finishing, viz.					
			Tunnel	240	6 8			
			Fencing	420	9 0			
			Land	702	12 9			
			Damages	1,312	16 2			
			Hungerford Mill	205	0 0			
			Claverton Mill	783	8 8			
			Interest	1,926	2 8			
			Locks	226	10 8			
			Lock Houses	976	10 11			
						6,793	17 6	
			Paid on Account of making Towing Path since the last Years Statement	758	9 10			
			Ditto making Wharfs, &c.	104	16 8			
						863	6 6	
			Tonnage due from Sundry Traders	2,565	1 11			
			Due for Tram Plates and Materials Sold	1,109	11 11			
						3,674	13 10	
			Cash to the debit of different Agents, being Money advanced to pay Contractors, &c.	715	12 0			
			To the debit of Worral & Co.	45	0 0			
			Old Defaults	34	9 4			
			Stock consisting of Land and other Property convertible	14,743	8 11			
			Ewbank's Mill	1,786	17 0			
						17,325	7 3	
			Paid on Account of River Kennet			12,503	14 7	
			Balance due from the Treasurers			12,423	7 11	
						1,009,410	4 5	

	£.	s. d.	£.	s. d.	£.	s. d.
To Tonnage received for the present Year	20,571	8 2				
Less, Drawbacks on Coal, &c.	445	9 0	20,125	19 2		
Income on Bath River Shares			1,444	10 0		
Rent			505	3 6	22,075	12 8
					22,075	12 8
Repairs	4,335	0 3				
Engineers, Surveyors, Agents, Law Charges, Committee Expenses, &c.	2,564	17 1				
Lockkeeper's Wages	1,580	5 11				
Steam Engine and Feeder	1,124	11 6				
Rent	627	17 4				
Balance transferred to the Credit of the above Account	11,843	0 7				
					22,075	12 8
					22,075	12 8

for one Year ending the 29th May, 1813”（以下，“Account of Income and Expenditure”とする）という二つの計算書によって構成される。

“Account of Income and Expenditure”は当期の利益を計算する報告書であり、Kennet & Avon 運河において初めて公表された損益計算書⁹⁾である。収支に基づいて、借方には通行料収入等の収益が、貸方には修繕費等の費用が、それぞれ項目別に計上されている。収益と費用の差額として利益が計算され、利益の金額は“Receipts and Expenditure”に振り替えられている。

一方，“Receipts and Expenditure”は、設立当初からの収支全額をあらゆる報告書となっている。借方の冒頭には前年の報告書で示された1812年の期末までの収入額が示されている。これに当期の資金調達額および借入金の金額が加算されいったん小計が計算されている。さらに“Account of Income and Expenditure”から振り替えられた利益の金額が加えられ合計額が示されている。貸方の冒頭にも同様に前期末までの支出額が示されている。これに当期の資本的支出等が加えられ、合計金額が計算されている。

1813年の報告書の特徴は、当期の利益計算を行っていることにある。すなわち、運賃収入をそれ以外の収入と区別し、営業上の費用となる支出をそれ以外の支出と区別し、独立した計算書で利益の金額を計算している。計算された利益は、“Receipts and Expenditure”の借方に振り替えられている。運河開通後も資本的支出は続けられており、“Receipts and Expenditure”の貸方には、資金の運用として運河の建設に関わる項目が列挙されている。1813年には配当金は支払われておらず、当期の利益として稼得した金額は資本的支出に振り向けられていたことが理解される。

図表5に示したように、1814年の報告書は，“General Statement of the Affairs of the Kennet and Avon Canal Company, to 29th May, 1814”（以下，“General Statement”とする）と“Account of the Receipts and Expenditure of the Kennet and Avon Canal Company, for the Year ending 29th May, 1814”（以下，“Account of the Receipts and Expenditure”とする）の二種類の計算書によって

(図表5) 1814年に公表された Kennet and Avon 運河の計算書

General Statement of the Affairs of the Kennet and Avon Canal Company to the 29th May, 1814.

Dr.	£.	s.	d.	£.	s.	d.	£.	s.	d.		£.	s.	d.	£.	s.	d.	Cr.
To Cash received on 2984 Shares, at	137	4	7 1/2	409,498	1	0				By establishing Brick Yards, making and purchase of Bricks, Building Locks, Bridges Aqueducts, &c.	288,588	8	2				
Ditto 2956 1/2	60	0	0	177,390	0	0				Earth Work	277,624	7	4				
Ditto 9835 at 201	196,700	0	0							Tunnel at the Summit Level	16,513	7	2				
Ditto on 99 Optional Notes, at 33l. 6s. 8d.	3,300	0	0	200,000	0	0				Fencing	13,936	5	7				
Ditto 4000 Shares at	24	0	0	96,000	0	0	882,888	1	0	Purchase of Timber, Building Boats, Craft, &c.	22,073	0	7				
The 1, 2, 3, & 4 Instalments, on 5,500 Shares New Subscription							93,500	0	0	Making Rail Road at Devizes	7,784	6	10				
Profit on 516 Forfeited Shares							5,236	0	0	Damages, including purchase of Water from Mills	30,558	11	7				
Total of Tonnage received							89,957	6	2	Purchase of Land	73,944	18	10				
Ditto Rents							3,255	10	0	Engineers, Surveyors, Clerks, Agents, Law Charges, Committee and Commissioners Expenses, Rents of Offices, Printing, Stationary, and Incidentals	67,586	6	8				
Ward and Merriman, due to them							658	8	9	Procuring Acts of Parliament	10,859	3	10				
River Kennet, Tonnage, Wharfage, &c.				3,532	14	5				Alterations, Additions and Improvements including Repairs	57,390	0	1				
Less Expenses				2,030	8	8	6,502	5	9	Mills purchased by the Company	6,206	17	0				
Avon River Shares, Dividends received							11,791	1	3	Mill at Claverton for Raising Water	7,453	19	3				
										Steam Engines and Feeder, at Croston	15,169	7	3				
										Wharfs, Waterhouses, &c.	3,612	1	2				
										Opposition to North Wilts Canal Act	608	18	10				
										Survey for a projected Rail Road in Gloucestershire	240	2	11				
										Expences of Ice Breaking	402	7	9				
										Avon River Navigation, Costs of 17 Shares	15,609	11	7	916,162	1	7	
										Interest paid to Proprietors on first Subscription				51,981	7	1	
										Ditto to Bankers, and Sundry Persons dor Advances	18,490	9	3				
										Ditto to Frederick Page, Esq. On Account Kennet River Purchase	5,834	0	9	24,324	10	0	
										Fifty Optional Notes paid off				1,666	13	4	
										Total of Rents paid				2,758	4	4	
										Avon River Towing Path Act	3,353	19	7				
										For making the Towing Path, on Account	1,631	12	4	4,985	11	11	
										River Kennet, Blakes Lock, and Wharf, and Materials, on each, as valued	105,854	15	11				
										Due to Fredrick Page, Esq. Thereon	50,277	1	6				
										Paid on Account of the Kennet Purchase				55,517	14	5	
										Stock, consisting of Land and Materials	11,444	2	1				
										Tram Plates Sold and not received for	716	15	9				
										Cash in the hands of the Treasurers	18,074	18	5				
										Ditto in the Hands of Agents	1,236	1	10				
										Tonnage due from sundry Traders on the Canal	3,203	7	7				
										Ditto on the River Kennet	1,711	2	9				
										Default on two Old Shares	34	9	4	36,422	18	3	
							1,093,879	0	11					1,093,879	0	11	

Account of the Receipts and Expenditure of the Kennet and Avon Canal Company,
for the Year ending 29th May, 1814.

Dr.			£. s. d.			Cr.
						£. s. d.
To Tonnage 1813		£. s. d.			By repairing the Lining of the Canal, Locks Aqueducts, Bridges Culverts, and Fences	4,522 14 10
	£. s. d.	brought up	12,218 10 2		Wages of Clerks and Lock-keepers	1,764 17 4
June,	2,017 6 5	December,	2,392 10 7		Agents Salaries	1,350 0 0
July,	2,086 8 8	Jan. 1814,	479 4 11		House Rent, Taxes, Travelling Expences and Expences of General and Sub-Committees	1,451 17 0
August,	1,835 10 7	February,	600 10 8		Working Steam Engines on the Summit Level	1,100 0 2
September,	2,102 3 5	March,	3,059 11 0		Repairs to Claverton Mill	391 2 1
October,	1,835 0 8	April,	2,555 15 11			
November,	2,312 0 5	May,	2,156 3 1			
carried up	12,218 10 2		23,702 6 4			
Less Drawbacks allowed			709 8 10	22,992 17 6		10,580 11 5
Dividends received from 17 Shares, River Avon				1,372 0 6		
Balance of Rents received				497 13 8		
Received for Tonnage, Whafage, and Sundries, on the River Kennet			8,532 14 5			
Interest paid F. Page, Esq.	3293l. 5s.					
Salaries, Repairs, & Taxes	2030l. 8s. 8d.	5,323 13 8		3,209 0 9	By Balance	17,491 1 0
				28,071 12 5		28,071 12 5

構成される。

前者の“General Statement”は、1812年に公表された“Receipts and Expenditure”に類似する計算書であり、過去のすべての収入および支出が示されている。借方には、出資者からの資金調達額、通行料収入、配当金の受取額等の過去のすべての収入が、項目ごとに総額で示されている。貸方には、運河の建築に要した支出や利息の支払い等、過去のすべての支出が掲載されている。

後者の“Account of the Receipts and Expenditure”は、収支に基づく損益計算書である。借方に収益が、貸方に費用がそれぞれ示されて、差額として利益が計算されている。ただし、1813年の報告書のように利益の金額が振り替えられてはいない。これは、“General Statement”に、当該年度も含めたすべての収入および支出が示されていることによる。

1814年の会計報告は、収支に基づいて利益計算を行う計算書（“Account of the Receipts and Expenditure”）とすべての収入支出をあらわす計算書（“General

Statement”)とを公表している点で、1812年および1813年の会計報告と類似しているが、以下の二点で異なっている。一つ目は、“General Statement of the Affairs”において、前年末までの合計に当期の収支を加えるのではなく、過去のすべての収支を項目ごとに示している点である。二つ目は、当期の利益を、“Account of the Receipts and Expenditure”から“General Statement”に振り替えるのではなく、当期の利益獲得活動による収支もすべて“General Statement”に含めている点である。

1815年と1816年の両年は、“Receipts and Expenditure on the Kennet and Avon Canal Company”（以下、“Receipts and Expenditure”とする）と“General Statement of their Affairs”（以下、“General Statement”とする）という計算書が公表されている。図表6に、1816年の計算書を示した。

“Receipts and Expenditure”は、1813年および1814年の計算書と同様に収支に基づいて利益計算を行う損益計算書である。報告書は借方と貸方に分かれており、借方には収益が、貸方には費用が示され、その差額として利益が計算されている。

“General Statement”には、全期間の資産・負債・資本・収益・費用が示されている。借方には、株主からの受取額等の資本の金額、運河の通行料収入や配当金の受取額等の収益の金額がそれぞれ示され、最後に、短期的な負債が計上されている。貸方の冒頭には、運河建設に関わる資本的支出が示されている。株式の取得に要した金額、運河に使用する土地の購入額等が、Kennet & Avon運河とKennet川の二つのセクションに分かれて示されている。次に、費用の諸項目が示され、最後に、短期的な資産が計上されている。

1814年の“General Statement”では、設立時からのすべての収入額および支出額が、項目別に示されていた。1815年および1816年の計算書では、借方の収入については、1814年の計算書と同様に、項目別のすべての収入額が示されている。貸方では、資本的支出に関しては、前年の“General Statement”から繰り越された金額に当期の支出を加えている。収益的支出に関しては、1814

(図表6) 1815年に公表された Kennet and Avon 運河の計算書

Receipts and Expenditure of the Kennet and Avon Canal Company,
and General Statement of their Affairs to the 29th May, 1815.

Dr.	£.	s.	d.	£.	s.	d.		£.	s.	d.	Cr.
To Cash received for Shares, viz.											
on 2884 at 137l.											
4s. 7 1/2d.	409,	498	1 0								
256 1/2 60 0 0	177,	390	0 0								
9835 20 0 0	196,	700	0 0								
49 in exchange for 49 opt. Nis. 33l. 6s. 8d	1,	633	6 8								
4000 at 24	96,	000	0 0								
5500 at 24 of which 21 l. per Share have been already called for, amounting to	115,	500	0 0								
25324 1/2 Total Shares	996,	721	7 8								
Profit on 516 Shares forfeited from Nonpayment of the Instalments	5,	236	0 0								
Total of Tonnage on the Kennet & Avon Canal	113,	040	0 0								
Ditto on the River Kennet	16,	737	4 1								
Ditto Dividends on 17 River Avon Shares	13,	609	11 3								
Ditto of Rents of Land to 29th May, 1815	3,	660	12 10								
Fines and Penalties	20	14	1								
Interest to the 29th Sept 1814, on 5,745l. 8s. 10d. Advanced to that time to River Avon Proprietors for making a Horse Towing Path	390	12	9								
				1,149,	506	2 8					
By Cost of Canal, 17 River Avon Shares and sundry Charges brought forward as per last Year's Account								916,	162	1 7	
Less for Land sold, part of the Land charged in the Sum of 73,944l. 18s. In last Year's Account								2,	503	9 2	
								913,	658	12 5	
Interest paid to Proprietors on first Subscription	51,	981	7 1								
Ditto to Bankers and sundry Persons for Advances	18,	616	0 4								
Land purchased for the use of the canal	62	5	0								
Compensation for Damages in forming the Canal	424	19	0								
Building Wharfs, Warehouses, &c. at Hilperton, and other Places	182	9	5								
Ditto Lock-houses on sundry parts of the Line	676	7	0								
Finishing sundry parts of the Towing Path and Fences, making and putting in additional Gates, &c.	402	15	10								
Superintending and Travelling Expences Claverton Mill, (an Iron Crane, &c.)	749	16	6								
	86	16	10								986,841 9 3
River Kennet, Blakes Lock & Wharf, and Materials on each, as valued 105,854l.15s.11d											
Due to F. Page, Esq. Thereon 47,568 8 7	58,	286	7 4								
Interest to F. Page, Esq. 22nd May, 1815	7,	701	11 5								
Improvements by deeping in the River Kennet and Locks thereon	6,	944	17 7								72,932 16 4
On Account of the Purchase made of the Proprietors of the Bath and Bristol Canal, being their interest in 6 Avon Shares, the Angel Inn near Bath Bridge, Land and Debts											15,000 0 0
Total of Rents of Land to 29th May, 1815	3,	152	18 9								
Salaries, Repairs & Taxes on the River Kennet	4,	642	19 10								
A Dividend of 15s. Per Share on 25,303 Shares	18,	977	5 0								
Repairing the lining of the Canal, Locks, Aqueducts, Bridges, Culverts & Fences	4,	965	10 10								
Salaries of Clerks, Agents & Lock-keepers	3,	195	15 3								
House Rent, Taxes, Travelling Expences and Expences of General and Sub-Committees	1,	138	12 5								
Working Steam Engines on the Summit Level	1,	116	2 2								37,189 4 3
River Avon Towing Path Act	3,	353	19 7								
Making the Towing Path, on Account	2,	968	16 8								6,322 16 3
Tram Plates, Land and Barge, sold and not received for	2,	060	9 11								
Tonnage due on the Kennet and Avon Canal	4,	114	5 3								
Ditto River Kennet	2,	206	0 2								
Ditto on two Original Shares lately claimed	34	9	4								
Stock consisting of Land and Materials	11,	384	11 6								
Cash in the hands of the Accountant	142	7	2								
Ditto of the Treasurers	11,	277	13 3								31,219 16 7
				1,149,	506	2 8					1,149,506 2 8

資金計算書の淵源

131

Account of the Receipts and Expenditure of the Kennet and Avon Canal Company,
for the Year ending 29th May, 1815.

Dr.						Cr.	
£.	s.	£.	s.	£.	s.	£.	s.
To Tonnage on the Kennet and Avon Canal, viz							
						By repairing the Lining of the Canal, Locks Aqueducts, Bridges Culverts, and Fences	4,965 10 10
1814	Dec.	2,320 4 4				Salaries of Clerks, Agents & Lock-keepers	3,195 15 3
June,		1,468 2 7	1815			House Rent, Taxes, Travelling Expences and Expences of General and Sub-Committees	1,138 12 5
July,		1,822 17 4	Jan.		1,998 8 4	Working Steam Engines on the Summit Level	1,116 2 2
Aug.		2,159 6 5	Feb.		2,357 0 6	Rent of Land	394 14 5
Sept.		2,242 11 10	Mar.		2,138 2	By Balance	20,498 8 11
Oct.		1,620 10 4	Apr.		2,142 4 5		
Nov.		2,406 19 4	May.		1,699 5 0		
Less Drawbacks allowed				24,375 13 0			
Tonnage, Wharfage, and Sundries, on the River Kennet				1,292 19 2	23,082 13 10		
Less Salaries, Repair, and Taxes				8,204 9 8			
Two half Year's Dividends on 17 River Avon Shares				2,612 11 2	5,591 18 6		
Rent of Land					1,818 10 0		
Interest on Advances for the River Avon Towing Path					404 14 10		
Fines and Penalties					390 12 9		
					20 14 1		
				<u>31,309 4 0</u>			<u>986,841 9 3</u>
							<u>31,309 4 0</u>

年の計算書と同様に、すべての支出額を項目別に表示している。

Kennet and Avon 運河においては、運河の開通に伴い、1813 年の会計報告より、損益計算書が公表されることになった。本節で検討した 1812 年から 1816 年にかけては、様々な形式の会計報告が行われており、損益計算書を含む会計報告の体系を構築するために試行錯誤していたものと考えられる。損益計算書自体は、ほぼ変わらずに収支に基づく計算書が示されていたものの、全期間の収支をあらかず計算書は、年によって異なる形式の報告が行われてきた。

Kennet and Avon 運河による会計報告は、1817 年以降、統一した形式によって、行われることになる。1817 年以降の会計報告の特徴として、後の複会計制度へと繋がる“General Account”が公表されていることが挙げられる。次節では、“General Account”の分析を中心に、1817 年の会計報告について検討する。

4. 資金計算書の淵源

図表7に示したように、1817年の会計報告は、“Account of the Receipts and Expenditure of the Kennet and Avon Canal Company”（以下、“Account of the Receipts and Expenditure”とする）と“General Account of the Kennet and Avon Canal Company”（以下、“General Account”とする）の二つの計算書によって構成される。

“Account of the Receipts and Expenditure”は収支に基づく損益計算書である。1813年以降毎年公表されている計算書と同様に、当期の営業活動に関わる収入と支出が示され、差額として利益が計算されている。

“General Account”における借方の最初の項目は、“The Amount of Stock and Debts last Year”である。前節で説明したとおり、1816年の“General Statement”では、借方に収入総額、貸方に支出総額が示されている。借方に示される収入総額には、資本の調達額や営業上の収入額のほか、短期的な負債の金額が含まれている。貸方の支出総額には、固定資産への投資額、営業上の支出額のほか、期末に現金や在庫品等短期的な資産として保有している金額が含まれている。“The Amount of Stock and Debts last Year”は、1816年の“General Statement”の短期的な資産の金額から短期的な負債の金額を差し引いたものである。計算書では、次に、当期における資本の調達額と、“Account of the Receipts and Expenditure”から振り替えられる利益の金額が示されて、合計金額が計算されている。“General Account”の貸方には、営業活動以外の支出額が示されている。最後に短期的な資産と負債が示され、それらの純額が、翌年の“General Account”の借方に振り替えられることになる。

1817年の会計報告においては、1816年まで開示されてきた全期間の収支をあらわす計算書は公表されていない。それに代わって、開示されたのが“General Account”である。“General Account”の特徴として、短期的な資産から短期的な負債を差し引いた、いわゆる運転資本の概念が用いられているこ

(図表 7) 1817 年に公表された Kennet and Avon 運河の計算書

Account of the Receipts and Expenditure of the Kennet and Avon Canal Company,
for the Year ending 29th May, 1817.

Dr.				Cr.			
£. s. d.		£. s. d.		£. s. d.		£. s. d.	
To Tonnage on the Kennet and Avon Canal, viz				By repairing the Lining of the Canal, Locks			
£. s. d.	£. s. d.			Aqueducts, Bridges Culverts, and Fences	4,293	12	9
1816	Dec, 2,301 17 4			Salaries of Clerks, Agents & Lock-keepers	3,033	3	8
June, 1,581 6 1	1817			House Rent, Taxes, Travelling Expences and			
July, 1,457 9 4	Jan, 1,815 3 9			Expences of General and Sub-Committees	1,202	15	1
Aug, 1,896 12 8	Feb, 1,680 9 5			Working Steam Engines on the Summit Level	1,205	7	11
Sept, 1,851 7 9	Mar, 2,020 14 6			One Year's Rent of Land	394	14	5
Oct, 1,999 7 2	Apr, 1,687 3 10			One Year's Rent Charge to F.Page, Esq. to 6th April,			
Nov, 2,016 9 11	May, 2,130 1 10	22,438	3 7	on 30,000l. left on Mort-gage	1,500	0	0
Less Drawbacks allowed		1,411	0 3	Interest to Ditto on a further Sum, of which 7,500l. is			
Tonnage, Wharfage, and Sundries, on the River		6,113	7 0	still unpaid	468	15	0
Kennet		2,612	11 2	Bad Debts for Tonnage about	500	0	0
Less Salaries, Repair, and Taxes				By Balance	14,285	15	7
Two half Year's Dividends on 17 River Avon							
Shares			951 10 0				
Ditto	on 6 Ditto		336 0 0				
One Year's Rent of Land			754 5 10				
Interest on Advances for the River Avon			330 0 9				
Towing Path			69 19 1				
Fines and Penalties							
			<u>27,091 10 5</u>				<u>27,091 10 5</u>

General Account of the Kennet and Avon Canal Company, Continued to the 29th May, 1817.

Dr.				Cr.			
£. s. d.		£. s. d.		£. s. d.		£. s. d.	
The Amount of Stock and Debts last year		21,281	9 11	By Frederick Page, Esq. on			
Received from the Eastern Extension Subscription		372	4 7	account			2,500 0 0
The Balance of this Year as above		14,285	15 7	Expended on Works for			
				Improvements and to settle old			
				Accounts			3,128 8 9
				The River Avon Towing Path			222 13 3
				Stock in Hand			12,212 12 8
				Tonnage due on the Kennet &	5,136	15 2	
				Avon Canal			
				on River Kennet	2,246	18 4	7,383 13 6
				Cash in Treasurer's Hands	10,599	12 7	
				Ditto Accountants Hands	105	15 6	
					10,703	8 1	
				Due to Ward and Merriman	211	6 2	10,492 1 11
			<u>35,939 10 1</u>				<u>35,939 10 1</u>

とが挙げられる。借方全体は、前期から繰り越された運転資本の金額に、当期の資金調達額および利益額が加えられているので、全体として資金の源泉をあらわしている。貸方は、それらの資金が何に用いられたかという資金の用途が示された上で、期末の運転資本の金額が示されている。“General Account”は運転資本資金を資金概念とする資金計算書の特徴を有しているといえることができる。

5. 結 語

本稿では、運河開通当初における Kennet & Avon 運河の会計報告書について検討した。運河の開通を受けて1812年の報告書では、設立当初からのすべての資金の調達および運用が示されている。1813年の報告書では、初めて利益計算が行われている。1812年以前の計算書では、運賃収入等の収益は資金の源泉の一項目として、修繕費等の費用は資金の運用の一項目として資本勘定で示されていた。1813年の報告書はこれらを“Account of Income and Expenditure”という個別の報告書に収容し、計算された利益を全期間の収支をあらわす“Receipts and Expenditure”に振り替えている。振り替えられた利益は、運河開通後も行われた資本的支出の原資となっている。

1813年以降、このように損益計算書と全期間の収支をあらわす計算書の二つの計算書による会計報告が定着した。損益計算書は、一貫して、収支に基づいて当期の収益と費用を対応表示する計算書が公表されたが、全期間の収支をあらわす計算書は様々な形式のものが公表された。

Kennet & Avon 運河は1817年より新たな形式の報告書を公表し、これが定着することになる。1817年以降の報告書は、“Account of the Receipts and Expenditure”と“General Account”からなる。前者の計算書は、収支に基づいて利益を計算する損益計算書である。後者の計算書は、運転資本の期首残高、期中の増減額、期末残高を示すものであり、運転資本を資金概念とする資金計算書の特徴を有している。本稿の冒頭で述べたとおり、Kennet & Avon 運河の

“General Account”が発展して、19世紀の鉄道会社における特徴的な計算書である“General Balance Sheet”になったと考えられており、“General Account”は、後の複会計制度の基礎となったとすることができる。運河会社において萌芽が見られた資金計算書が、鉄道会社の会計実務にどのように引き継がれていったかについては、今後の課題としたい。

本稿は、平成19年度松山大学特別研究助成の成果である。

参 考 文 献

- Edwards, J. R. (1985) The origins and evolution of the double account system: An example of accounting innovation, *ABACUS*, Vol. 21, No. 1.
- Edwards, J. R. (1989) *A History of Financial Accounting*, Routledge.
- Evans, G. H. (1936) *British Corporation Finance 1775-1800: A study of preference shares*, Johns Hopkins Press.
- Hadfield, C. (1974) *British Canals: An illustrated history*, Phoenix House.
- Jackman, W. T. (1966) *The Development of Transportation in Modern England*, Frank Cass.
- McCartney, S. and T. Arnold. (2006) The transition to finance capitalism and its implications for financial reporting: evidence from the English canal companies, Working Paper 06/03, University of Essex.
- Ward, J. R. (1974) *The Finance of Canal Building in Eighteenth-Century England*, Oxford University Press.
- 倉田三郎 (1978) 「イギリス複会計制度と資金計算書」『松山商大論集』第29巻, 第5号。
- 黒沢清 (1957) 「近代会计学と複会計制」『税経通信』第12巻, 第10号。
- 澤登千恵 (2002) 「19世紀英国鉄道会社における複会計制度の確立:L&B 鉄道会社の会計報告書を中心に」『高松大学紀要』第38号。
- 染谷恭次郎 (1986) 「複会計制と資金計算書」『早稲田商学』第314・315合併号。
- 中村萬次 (1991) 『英米鉄道会計史研究』同文館出版。
- 中村萬次 (1981) 「イギリスにおける運河会社の財務と会計1759-1815」『熊本商大論集』第28巻第2号, pp. 1-39。
- 新田忠誓 (1995) 『動的貸借対照表論の原理と展開』白桃書房。
- 溝上達也 (2002) 「英国資金会計の本質」『松山大学論集』第14巻第4号, pp. 271-288。
- 溝上達也 (2007) 「英国運河会社における資本勘定」『松山大学論集』第19巻第6号, pp. 47-64。

村田直樹 (1994) 「Kennet and Avon 運河の会計報告 1794-1833」『長崎県立大学論集』第27巻第2・3号, pp. 291-310。

村田直樹 (1995) 『近代イギリス会計史研究－運河・鉄道会計史－』晃洋書房。

湯沢威 (1976) 「18世紀イギリスの有料道路・河川・運河経営」『商学論集』第45巻第1号, pp. 1-37。

注

- 1) 鉄道会社の複会計制度は、1868年の The Regulation of Railways Act (鉄道規制法) によって確立したと言われている。The Regulation of Railways Act については、Edwards (1985), 染谷 (1986), 倉田 (1978), 新田 (1995), 溝上 (2002) 等を参照のこと。
- 2) General Balance Sheet に対しては、「一般貸借対照表」という訳語が一般的であるが、他にも「総括貸借対照表」「総括残高表」と訳すべきであるということも主張されている。本稿では、この問題については踏み込まないので、原語のまま表記することにする。
- 3) London and Birmingham 鉄道における会計報告については、澤登 (2002) を参照のこと。
- 4) Kennet and Avon 運河の詳細については、Ward (1974), 村田 (1995), 溝上 (2007) を参照のこと。
- 5) このような事態に陥った理由として、物価の上昇による建設コストの高騰も要因の一つとしてあげられるが、企画上の不正が致命的な問題であった。当時の運河建築の問題点については、Jackman (1966) を参照のこと。
- 6) 1801年法によって3,000株の新株発行が認められ、原初株主に割り当てられた。1805年法では新株と転換社債によって合計200,000ポンドの追加資本が認められた。さらに1809年法では4,000株の新株発行が認められている。Kennet & Avon 運河における資本調達の詳細については、Ward (1974), 中村 (1991), 村田 (1994) を参照のこと。
- 7) この間の報告書の詳細については、村田 (1994), 溝上 (2007) を参照のこと。
- 8) 1804年の報告書の詳細については、溝上 (2007) を参照のこと。
- 9) Kennet and Avon 運河の損益計算書については、村田 (1994) を参照のこと。